

世界を良くするためには、インターネットを普及させ、発展途上国の識字率を上げることが大切であると思う。なぜなら識字率を上げることで死亡率が下がるからである。

私は学校の授業で、発展途上国のある画像を見て、とても驚いた。それは、薬を飲みたいう子どもが、ラベルのついたある二つの瓶を見ているという画像だ。実はこの二つのラベルには「薬」と「毒」と書かれていた。しかし、彼は字が読めなかったため、毒を選んで

しまう可能性があるという授業だった。私はこの授業を通して、世界では識字率が低く、それは命に直結するということを学んだ。発展途上国では、識字率が低い傾向にあり、それらの国はアフリカや東南アジアに集中している。識字率には就学率が関係していて、就学率が低いのは、児童労働や紛争のためである。最近では、募金の他にも先生を派遣するという支援が行われているが、それらの地域では安全が確保されないため、行きたいと手を挙げる教師は多くない。そこで私は、インターネットを発展途上国にも発展させ、リモートでも授業ができるようにすることで、離れた場所から授業ができ、金銭的な援助とは違い、半永久的な支援を行うことができるとはならないかと考えた。日本ではコロナによりオンライン授業が急速に導入されたが、発展途上国では、インターネットの普及が進んでいない。普及させることで、場所や時間にとらわれない学習を進めることができる。例えば、

紛争等で引越さざるを得なくなっても学習を続けることができる。また、児童労働はお金や生活の問題もあるため、簡単にはなくせないが、インターネットであれば朝や夕方にも学習することもできる。

インターネットが普及し、世界中の子ども達が学習することができるようになれば、確実に識字率は上がり、死亡率が低くなる。これらは世界を良くすることに繋がると思う。